



# 祐介の目

No.132

大田祐介 (福山市議会議員)

時の上陸地点等を熟知していた。

波が高いとカヤックは木の葉のように翻弄されるが、大型船のように船首が波に突っ込むことは無くむしろ安全。荒天の日は海岸沿いにカヤック

## 知床エクスペディション

世界遺産である知床半島、国内でも数少ない自然が手つかずのまま残されている。そこで遊覧船が沈没して運行会社の社長がやり玉にあがっているが、未熟な船長が知床の厳しい気象に対応できなかったことも大きいし、4月なら乗客にドライスーツ＋ライフジャケットを着用させるべきだったと感じる。

25年前の夏、私は一週間かけてシーカヤックで知床半島を周回したことがある。当時は体力・気力ともに充実しており、田尻から四国まで往復したこともあった。ガイドの新谷暁生さんは世界の荒海を漕いだ経験があり、ツアー参加者には細かい準備物リストが送られてきた。ウールのセーターやダウンのシュラフを防水バッグに入れてカヤックに積み込み、漕ぐ際はウエットスーツにライフジャケット、新谷さんは知床特有の気象の急変や、いざという

クを引っ張って進んだ。キャンプはヒグマが下りて来れないような断崖に囲まれた湾を選ぶ。流木を集めて焚火を起こし炊事をして、その日の航海を振り返って酒を酌み交わす。まさにエクスペディション(冒険旅行)だった。

さて、すっかり有名になったカシュニの滝は、カヤックでその下をくぐったりもした。しかし、その先は通称「ルシャおろし」という強風が吹くエリアであり、KAZUIが沈没した場所だ。私たちツアーメンバ―も半数は転覆した。新谷さんの指示もあり、各自装備は万全なので冷静にカヤックを岸辺に寄せ、全員リカバリしてきた。近年かつては冒険家が行くような場所に観光客が簡単に行けるようになったが、遊覧船の事故再発防止策だけでなく事故発生時の対策も重要だ。

福山でもシーカヤックを体験したければベテランガイドの村上泰弘さん(村上水軍商会)に連絡してほしい。冒険家気分が味わえるだろう。